

小池みさを

島・平岡・柁崎・皆川

本論文では、障害児を育てる時系列のなかで、次子出産をめぐる療育システムの現状と、親の求める視点を探ることを目的とする。

調査方法は、障害児をもち、次子を出産した、あるいは出産を予定している母親への聞き取り調査（補助的な質問紙調査）、当事者どおしのグループディスカッションなど、可能な限りの手法を用いる。（「質問紙」については、現在、専門家と相談しつつ準備・検討中である）

そのことを通して、親にとっての障害受容の過程、状況によるストレスなどを明らかにし、次子出産に向けて求められるサポートシステムのあり方を検討したい。

キーワードを、①障害受容の過程、②親のストレス、③サポートシステムと設定し、以下に、それぞれのテーマで論じる課題について、略述する。

①障害受容の過程

障害をもつ子どもを出産（あるいは妊娠）したさい、病気・障害についてどのような告知をされたか、また、そこでどのような身体的・精神的状況が生じたのかを、ていねいに調査することにより、期待されるサポートシステムのあり方を探る。

また、「通所施設」など、療育に関わる機関、「親の会」などの自助グループが、障害受容、次子出産への情報提供の場として、どのように役立っているのか、また、役立ち得るのかを検討する。

②親（母親）のストレス

障害をもつ親のストレスに関する既存の研究を

参照しながら、ストレスの原因を、子どもの障害との関係に限定することなく、親子・夫婦の関係のあり方、また、家族を取り巻く環境、親の自身個人の生活（価値観）との葛藤、などとの関わりから分析する。

その際には、聞き取り調査から得られた情報を参考に、質問紙調査からは見えてこない、背後にある複雑・微妙な問題が見えてくるよう留意する。

③次子出産にむけて求められる療育サポートシステムの検討

親の悩みを構造的に把握し、サポートスタッフが関わるべきポイントをおさえる。そのうえで、サポートシステムが、次子出産に対する情報提供、相談の姿勢のあり方、施設・機関同士の連携において、どのようであるべきかを検討する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本論文では、障害児を育てる時系列のなかで、次子出産をめぐる療育システムの現状と、親の求める視点を探ることを目的とする。

調査方法は、障害児をもち、次子を出産した、あるいは出産を予定している母親への聞き取り調査(補助的な質問紙調査)、当事者どおしのグループディスカッションなど、可能な限りの手法を用いる。(「質問紙」については、現在、専門家と相談しつつ準備・検討中である)

そのことを通して、親にとっての障害受容の過程、状況によるストレスなどを明らかにし、次子出産に向けて求められるサポートシステムのあり方を検討したい。

キーワードを、障害受容の過程、親のストレス、サポートシステムと設定し、以下に、それぞれのテーマで論じる課題について、略述する。